震ニテハ、定メテ早々御登城アルベキヤト申サル、人アリシ、其時小性ヲ呼セ玉ヒ、御居間ノ水桶ノ水コボレタルヤ、見テ參ルベシト仰セラル、其人則見テ參リ、水ハコボレ申サヾルヨシヲ申ス、然ラバ地震ニ付テノ御登城ナサレマジキナリト宣フ、其時或人申サル、ハ、タヾ今仰付ラル御居間ノ水コボレタルヤト御尋ノ儀ハ、イカヾ仕リタル事ニヤト申サレケレバ、ソコニテ答ヘ仰ラレシハ、總ジテ地震ユリタル時、イカホドノ地震ニハ登城然ルベシトノ義、計ヒ難ニ付テ、其爲ニ常ニ居間ノ前ニ水桶ヲ置テ、御城ニテ地震ユル時宅ヘ歸リ、今日ノ地震イカホドニヤトアル義ヲ相尋ヌレバ、水ノ動キヤウ、是ホドノ位ト申ス、夫ニテ御城ニテノ地震ヲ考ヘ、是ホドニテハ登城然ベキトノ義ヲ試置ナリ、コレニ依テ只今水ヲ見セニ遣スナリト仰ラル、實ニハ地震ノホドライ知ガタキモノナルニ、働セラル、智慧ナリト、其人ゴトニ感ゼラレケルトナリ、

地震爲前兆

〔三養雜記一〕地震にて晴雨を知る歌

世に地震にて晴雨を知る歌とて

九はやまひ五七の雨に四日でり六八なれば風としるべし、この九はやまひといへるは、疾病のことにはあらず、空の曇をいへり、そのよしは、唐土の地震にて晴雨を知る訣に、日風疾雨と順にくる時はしらるゝよし、日明六晝八夜四風五七九疾四暮六夜九雨九夜五明七これは澀井春海の傳來なるよし輪池翁のはなしなりき、再おもふにこの地震の歌の時取あやまれり、六ツ日でりならでは叶はず、そのよしは、明暮の六と晝夜の九とは竪横にて、數一なるべし、四八と五七とは二づゝにて、竪横の間をいへるなり、猫の目にて時刻を知る歌にても併おもふべし、○圖略

豫知地震

〔吾妻鏡三十四〕仁治二年二月七日乙丑、巳刻大地震、古老曰、去建暦年中有如今之大動、卽是和田左衞門尉義盛叛逆兆也、其外於關東未有如此例云云、其後午時、子刻、兩度小動、

〔震雷考說〕一爰に今年安政二卯十月二日亥の上刻ばかりに、いかなる狂津日の惡ことにや、江戸